

新田次郎原作『劔岳点の記』

劔岳ほこらの祠を取材

写真家 高橋 敬市(富山市)



立山雄山神社におろされた祠



山頂にあった祠

今、立山の麓、芦峯寺の立山雄山神社の境内に劔岳の祠が誰も引取り手がないまま放置されている。一昨年の10月、劔岳山頂に鎮座していた祠が50年ぶりにヘリで降ろされてきたものだ。ご神体は現在、劔岳へ登頂する一般登山者が利用する劔山荘の山小屋に一時預けられている。祠は昭和32年(1957年)、立山味噌醤油株式会社の吉川良平氏の御高志によって建立されたものと聞く。祠の大きさは高さ140cm横160cmの二重構造で、本殿はケヤキが使われていた。御神体は重さ約5キログラムの石仏が二体安置されていたという。屋根は銅板が張ってあったが、今はトタンだけで落雷によるおもわれる穴が数箇所残っている。

北アルプス、劔岳といえば「雪と岩の殿堂」といわれ、わが国有数の峻険の峰。どこから眺めても、どこから登っても、四季折々、これほど変化に富んだ山はないだろう。

昨年、平成19年(2007年)はその登頂から100年目にあつた。国土地理院は、「劔岳測量100周年記念事業」の一環として、平成16年(2004年)8月、劔岳(富山県中新川郡上市町・立山町)に花崗岩で作られた重さ約65キログラムの標石(三等三角点)を埋設し、人工衛星を利用した測位システム(GPS測量)から最高地

点の標高を2998mから2999mに改定したことを公表し、2万5千分1地形図「劔岳」に三等三角点の標高と最高地点の標高値を併記した。また、劔岳の最高地点は、新たに埋設した三角点より南西方向へ約13m離れた、祠の西側に突出した岩上であることを確認した。

さて、半世紀もの間、風雪によって老朽破損し、御造営を望むことから、平成19年(2007年)4月1日に劔嶽社御造営奉賛会が発足した。工事費用は500万～600万円(本体が約300万円)かかるだろうといわれ、できれば今年8月のお盆くらい前までに新しい御神殿を完成させたいという。

今年の1月、雄山神社劔岳社御造営工事之図(設計図)が完成し、建築用資材などの準備を進めているはずである。それを一任されているのは神社仏閣設計施工専門の富山市婦中町に住む酒井仁義氏。頭領でもある酒井氏は平成8年(1996年)立山雄山神社の神殿を設計した匠でもある。完成された新しい祠はヘリコプターで山頂に運ばれる計画だ。

御奉賛の詳細は雄山神社のホームページ <http://www.oyamajinja.org> または佐伯睦磨氏まで。